

I 研究主題及び副題

「基本的な学力を身に付け、将来の夢の実現に向けて努力する児童生徒の育成」
～小中一貫校・小規模校の強みを生かした学習指導の工夫を通して～

II 主題設定の理由

○ 今日的な教育の動向から

現在の日本では、少子化社会にともなう高等学校や大学等への全入時代を背景に、学ぶ意欲の欠落や学力の低下が深刻な問題になっている。そのような中、学習指導要領では、「生きる力」を育むことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないとしている。

宮崎県では「第二次宮崎県教育振興基本計画」を策定し、「確かな学力を育む教育の推進」の着実な実施が図られている。その中で、学んだ知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲をさらに高めることが必要だとしている。

また、都城市の「都城学校教育ビジョン」では、戦略の一つとして、生きる力を支える「基礎・基本の力」を育む教育を掲げ、小学校における「音読」「美しい文字」「漢字」「計算力」、中学校では「基礎的・基本的な知識や技能」などの定着、「全教科における言語活動を行う能力の育成」を重点項目に挙げている。

そして、平成28年度末に、県からは「校内研修を推進するために」の中で、「個々の教師の授業に対する4つのチェックポイント」が、市からは「都城市小中一貫学力向上研究指定事業」への取組が示された。

○ 本校の実態、教育的課題から

本校は、平成22年度より都城市初の小中一貫校として、「小中一貫9年間を見通した教育活動」、「家庭・地域とのつながりを重視した教育活動」、「少人数、小規模で行う教育活動」を取り組んできた。保護者や地域の人々のふるさと笛水への思いや学校に対する関心は高く、様々な教育活動に対して協力的である。児童生徒は、恵まれた自然環境と人間味豊かな地域の中で、明るくのびのびと育っており、学習にも意欲的に取り組んでいる。

しかしながら、一人一人の学習への取組や学力には個人差があり、必ずしも全員が基礎的・基本的な知識や技能が定着しているとは言えないことが、課題として挙げられている。

○ 本校の教育目標と研究の経過から

本校では、教育目標として「やりぬき、礼をつくし、笛水をほこれる子どもの育成」を掲げ、目指す児童生徒像の一つに「学んだことを学習や生活に生かす児童生徒」と設定している。このような児童生徒を育てるためには、学習の基盤となる「基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着」と、子ども一人一人が、自ら課題を見出し、興味・関心をふくらませながら、自ら学び、自ら考える「主体的に学習する力」の両面の育成が重要と考える。

本校は、平成27年度に、研究主題を「一人一人の確かな学力の向上を目指した指導方法の工夫」とし、「『わかった』『できた』を実感できる学習指導」や「日常的に読む活動」について、具体的に研究に取り組み、基本的な学習指導過程についての共通理解を図った。さらに平成28年度には、「基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着」に加えて、「関心・意欲の向上」に焦点を当て、「導入の工夫」「評価の在り方と個に応じた手立て」「ICT機器の活用」について具体的に研究を進めるこ

により、一人一人の児童生徒が、学習する楽しさや喜び、充実感や自信を味わうことができた。

29年度からは、都城市の「小中一貫学力向上指定研究事業」を受け、高崎中・笛水小中校区の各校が合同で、学力向上のために授業改善や児童生徒の学力についての実態把握等の取組を進めてきた。

本年度は、これまでの取組を生かし、高崎中・笛水小中校区の各校が共通の研究主題を掲げ、「個々の教師の授業に対する共通のチェックポイント」に対応できる小中一貫校・小規模校の強みを生かした具体的な手立てを授業研究の中で明らかにしていき、児童生徒の学力向上につなげていきたいと考え、本主題を設定した。

III 研究の構想

1 研究の目標

「個々の教師の授業に対する共通のチェックポイント」に対応できる小中一貫校・小規模校の強みを生かした具体的な手立てを授業研究の中で明確にし、児童生徒の学力向上につなげる。

2 研究の仮説

「個々の教師の授業に対する共通のチェックポイント」に対応できる小中一貫校・小規模校の強みを生かした具体的な手立てを考え、その手立てをもとに授業を実践すれば、一人一人の児童生徒が、学習する楽しさや喜び、充実感を味わうことができ、学力の向上につながるであろう。

3 研究の内容

(1) 児童生徒の学力についての実態把握

ア 経年変化データの入力と分析結果の活用

- (ア) 「各教科の正答率折れ線」
- (イ) 「設問ごとの正答率分布図」

○ 高崎町内の学校の共通データベースに本校の児童生徒のテスト結果を入力して全体の傾向を把握するとともに、児童生徒一人一人の個人カルテに記入して、個人の実態を把握する。

イ 12月に比較問題を行い、児童生徒の変容を観察する。

○ 小5・中1はみやざき学力調査、小6・中3は全国学力学習状況調査において正答率が低かった問題について、類似問題を行わせて変容を見て、3学期の指導に生かす。

ウ プレテストの活用を図る。

○ 2月～3月上旬にみやざき学力調査、全国学力調査の過去の問題を解かせて4月に向けての対策をとる。

(2) 授業改善

ア 「前時までの振り返り」「めあてを立てる」「学び合いをする」「振り返りをする」を授業の中で取り入れる。特に「学び合い」は、課題解決型学習を意識し、主体的・対話的で深い学びを通して子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育成する。（発表する力、書く力の育成）

イ 教科ごとの単元系統配列一覧表の活用

教科書出版社等で作成されたものを活用し、教科の系統性を意識する。指導案作成時、指導観に系統を明記する。

ウ 全員が研究授業を行い、可能な限り他校の先生に授業参観や事後研に参加してもらう。

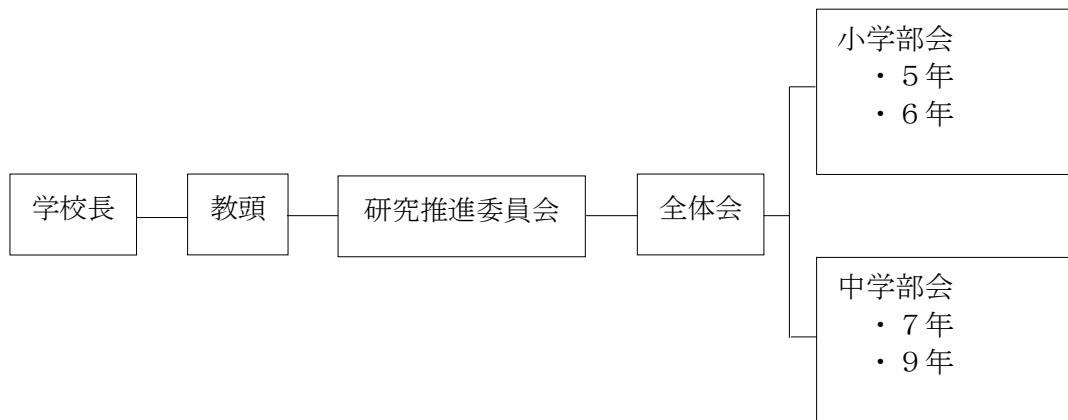
(3) 習熟

算数・数学はWeb問題を、国語は市販の共通テキストを活用する。

(4) 学び方

「家庭でつくる8つの習慣」の活用状況を知るためのアンケート調査を行い、実践化を促進する。

4 研究の組織



5 研究授業のもち方

小学部 5年 国語

6年 算数

中学部 9年 英語

7年 数学

9年 理科

IV 研究計画

回	月	日	形 態	主 な 研 究 内 容
1	4	11	全体会	平成29年度の振り返り・平成30年度の方向性 県・市等の学力向上についての基本的な考え方
2	5	16	全体会	高崎地区小中一貫教育全体研修会① 高崎中学校授業参観
3		23	全体会	研究授業者決定 指導案形式等
4	6	6	全体会	研究授業の指導案検討①
5		20	全体会	研究授業①
6	7	3	全体会	1学期研究のまとめ (授業研の成果と課題)
7	8	1	全体会	高崎地区小中一貫教育全体研修会② 授業改善の方向性と共通実践事項の確認
8		2	全体研	共通実践事項の確認と学力の実態分析
9		16	全体会	2学期の研究授業の概要の検討
10		29	全体会	研究授業の指導案検討②
11	9	19	全体会	研究授業②
12		26	全体会	研究授業の指導案検討③
13	10	9	全体会	研究授業③
14		17	全体会	高崎地区小中一貫教育全体研修会③ 高崎麓小学校授業参観
15		24	全体会	研究授業の指導案検討④
16	11	14	全体会	研究授業④
17		21	全体会	研究授業の指導案検討⑤
18	12	7	全体会	研究授業⑤
19		25	全体会	研究紀要作成計画の検討
20	1	4	全体会 部別研	研究紀要原稿の執筆・編集
21		7	全体研 部別研	研究紀要原稿の執筆・編集
22		16	全体会	高崎地区小中一貫教育全体研修会④ 高崎地区的成果と課題の検討
23	2	6	全体会	成果と課題の整理
24	3	6	全体会	本年度の反省及び次年度の展望